

入間市水道事業の概要

◎ 入間市の水源

入間市の水道水は、入間市で作った水（自己水）と埼玉県から購入した水（県水）の二つに分けることができます。

自己水は、鍵山浄水場で入間川の水を取水し、浄化したものです。

県水は、埼玉県営水道の大久保浄水場から入間市に送られてくる水のことをいいます。

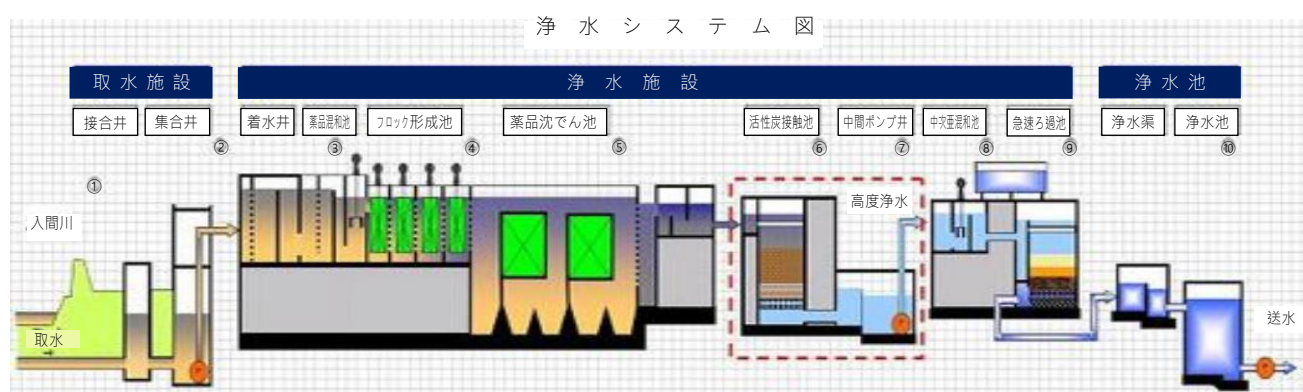
事業体	県水と自己水の割合
所沢市	県水 88% 自己水（地下水）12%
飯能市	県水 13% 自己水（伏流水）83%
狭山市	県水 95% 自己水（地下水、伏流水）5%
日高市	県水 60% 自己水（地下水）40%

入間市の水道水の内訳は、自己水が約 20%、県水が約 80%で、渇水時や緊急時に備え、二つの水源を確保しています。

● 鍵山浄水場

鍵山浄水場では、入間川の伏流水を取り入れ、水質基準に適合した水づくりをするため、通常の「沈でん」「ろ過」「消毒」に加え「粒状活性炭」による高度処理を組み合わせた4段階の浄水処理を行っています。

また、水運用センターとしての機能を備え、市内にあるすべての配水施設（7施設）を24時間体制で遠方監視しています。



● 埼玉県営水道（大久保浄水場）

大久保浄水場は、利根川の水を利根大堰・武蔵水路を通して荒川に合流させる注水口（鴻巣市）の下流にあります。現在、ここから供給する水道水は、県南中央地域及び県西部区域 15市1町の約330万人に利用されています。また、産業基盤の整備と地盤沈下の防止を図るため、県南地域の約90事業所を対象に工業用水も供給しています。

このうち入間市では、1日平均約37,000トンの水を豊岡・藤沢などの配水場で受け入れ、そこから皆様のご家庭に配水しています。

◎ 入間市の水道施設



施設名 (稼働年)	配水の状況
① 鍵山浄水場 (平成 19 年)	高度浄水処理で、良質になった水道水を東金子配水場と扇町屋配水場へ送っています。
② 豊岡配水場 (昭和 63 年)	県水を配水地に入れて、豊岡、扇町屋、扇台、東町、高倉方面の標高の高い地域（高区）にポンプで加圧して、水を配っています。また、黒須、宮前町、春日町、鍵山、牛沢町方面の標高の低い地域（低区）へはポンプを使わず自然流下方式で水を配っています。
③ 扇町屋配水場 (昭和 49 年)	県水と自己水を配水池に入れて、久保稲荷、東町、上藤沢、下藤沢方面にポンプで加圧して、水を配っています。
④ 藤沢配水場 (平成 12 年)	県水を配水池に入れて、宮寺、二本木、狭山台、狭山ヶ原方面にポンプで加圧して、水を配っています。また、武蔵工業団地や狭山台工業団地へも水を配っています。
⑤ 東金子配水場 (昭和 60 年)	県水と自己水を配水池に入れて、ポンプで加圧して、寺竹配水場、入間台加圧場、西武第一配水池に送水しています。また、東金子地区、金子地区、西武地区、扇台の一部などに水を配っています。
⑥ 寺竹配水場 (平成 30 年)	東金子配水場から送られてくる水を配水池に入れて、高区はポンプ圧送により南峯、木蓮寺、入間工業団地、寺竹の一部など標高の高い地区に配っています。低区は自然流下方式により、高区配水区域以外の金子地区全域に水を配っています。
⑦ 入間台加圧場 (平成 7 年)	東金子配水場または、寺竹配水場から送られてくる水を入間台加圧場の配水池に水を入れて、標高の高い加治丘陵の入間台地区や小谷田の一部に水を配るための加圧ポンプ場です。
⑧ 西武第一配水池 (昭和 50 年)	東金子配水場から送った水を配水池に入れて、西武地区の仏子、野田、新光に自然流下方式で水を配っています。

◎ 水道管の耐震化

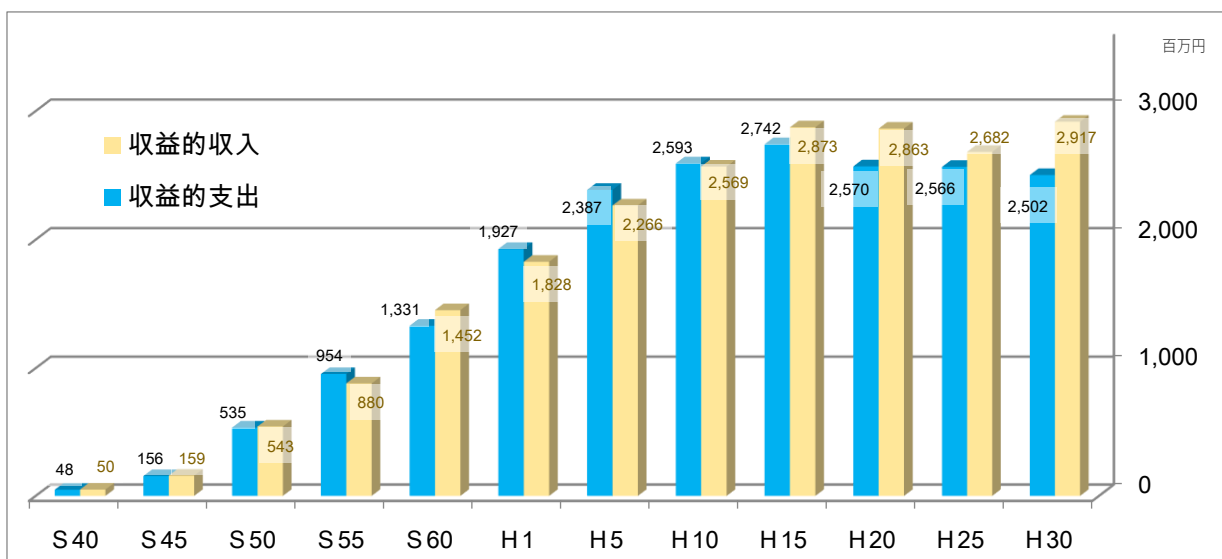
昭和 31 年に給水を開始し、事業の拡張により水道管を整備してきました。令和 2 年度末時点で入間市が管理する水道管は約 509km となり、姉妹都市である新潟県佐渡市を直線で往復した距離とほぼ同じ長さとなります。

昭和 40 年代前半に整備した水道管は老朽化が進み、取替え時期を迎えています。古くなった水道管は漏水したり、地震の影響により水道管が破損して断水する恐れがあります。入間市では古くなった水道管を耐震管に取り替える工事を計画的に行っています。

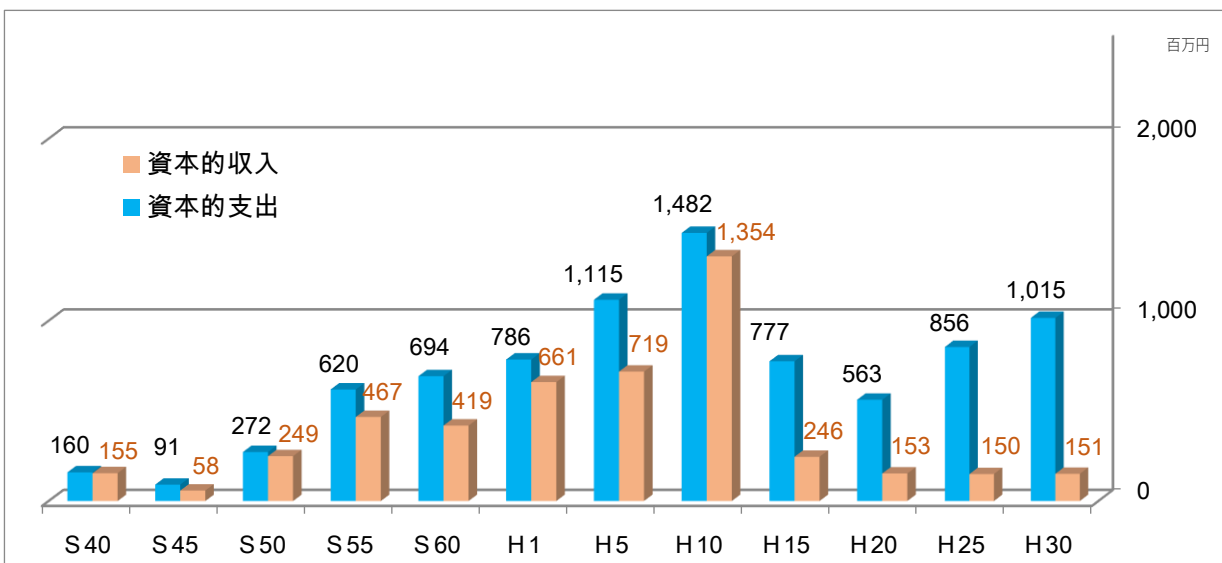
水道管の耐震化率 34.5%
〔令和 2（2021）年度末〕
40%〔令和 8 年度末〕
を目指しています。

◎ 水道事業の財務

● 収益的収支（水道事業を運営するための財源と経費）の推移



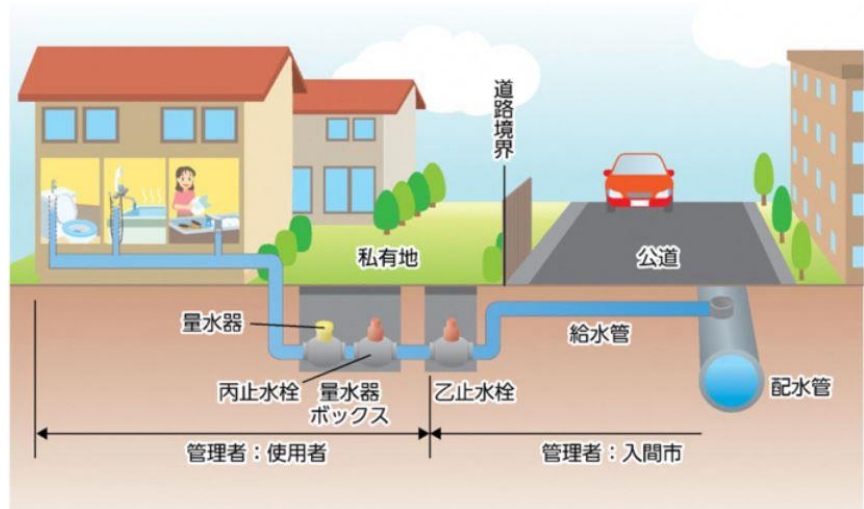
● 資本的収支（水道施設をつくるための財源と経費）の推移



◎ 水道のしくみと管理区分

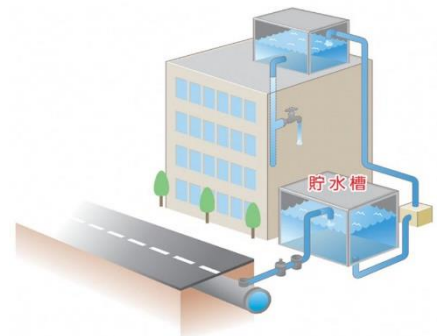
● 水道のしくみ

道路の下には、水道施設から水を送るための配水管が埋まっています。この配水管から各家庭に引き込まれているのが給水管です。一般住宅の水道とマンションやビルの水道では、給水管からの先のしくみに違いがあります。



一般住宅の水道 各家庭に引き込まれた給水管と止水栓、量水器（メーター）、蛇口などの器具を「給水装置」と呼びます。配水管は、上下水道部の資金で設置や維持管理を行いますが、給水装置は、所有者の皆さんがご自分で費用を負担して設置します。

マンションやビルの水道 中・高層のマンションやビル等は、水道水をいったん貯水槽（受水槽）にため、そこから各家庭や事務所に水を送っています。このような水道では、給水管から貯水槽に水を入れるところまでが「給水装置」とされ、貯水槽や高架水槽は、「流末装置」と呼びます。



● 水道管の管理区分

私有地内の水道管

配水管からの分岐部分から最初の止水栓（仕切弁・乙止水栓）までは上下水道部が管理しています。それから先が皆さんの管理になります。（所有権の境界は公道と私有地の官民境界になり、管理区分の境界とは異なります。）

道路部分の水道管

- ・ **公道部分** 配水管及び配水管からの分岐部分から最初の止水栓（仕切弁・乙止水栓）までは、上下水道部が管理しています。
- ・ **私道部分** 配水管からの分岐部分から最初の止水栓（仕切弁・乙止水栓）までは上下水道部が管理しています。それから先が皆さんの管理になります。（所有権の境界は公道と私有地の官民境界になり、管理区分の境界とは異なります。ただし、水道管理設時に上下水道部で材料を支給したものや上下水道部に寄付された水道管は上下水道部の所有・管理になります。）